



公益財団法人沖繩科学技術振興センター
OKINAWA Science and Technology Promotion Center

沖繩のバイオコミュニティを 世界へつなぐ拠点

公益財団法人沖繩科学技術振興センター（OSTC）は、沖繩県の科学技術振興の核心的な支援機関として、県内の大学や高等専門学校、県内企業、県外の研究施設・企業との産学官連携を促進し、バイオ産業の振興に取り組んでいる。

県は、うるま市州崎地区に沖繩ライフサイエンス研究センター、沖繩健康バイオテクノロジ研究開発センター、沖繩バイオ産業振興センター、沖繩県工業技術センターといったインキュベーション施設・研究施設を整備しているほか、琉球大学内にも産学官連携に取り組む施設を設けている。こう

した取り組みを通して、創薬や環境、エネルギーといった分野のバイオベンチャーが集積している。

再生医療分野では、琉球大学に培養施設が整備され、培養した幹細胞を企業に供給する体制を構築している。感染症分野では、成人T細胞白血病（ATL）をはじめとする様々な感染症研究に取り組んでいる。

現在、州崎地区では、アフターコロナを見据え、那覇空港をアジアに向けたハブ空港として、同地区で製造した検査キットや抗体、タンパク、幹細胞などを県外や国外に輸送するための体制構築に取り組んでいる。

。地域のバイオコミュニティと世界、東京、関西をつなげ、臨床や感染症、再生医療などの分野での世界進出を目指している。

2021年には、沖繩県内のSDGs等に関連する課題をイノベーションにより解決するビジネスモデルを有する事業者への支援を目的とした、「おきなわイノベーション創出ファンド」が組成された。沖繩に立地するバイオベンチャー等への出資準備を進めているところである。



- 1 沖縄ライフサイエンス研究センター内の研究設備を見学
- 2 沖縄県やOSTC、バイオベンチャーによるプレゼンテーション
- 3 藻類を培養するガラスチューブ型のフォトバイオリアクター

バイオベンチャー企業によるプレゼンテーション

オーピーバイオ ファクトリー



金本 昭彦
代表取締役

沖縄の海洋生物資源を活用

事業内容 2006年2月に海洋調査会社から独立するかたちで設立。生物資源を活用したライブラリー構築・販売事業、化合物探索受託事業、物質生産・原料供給事業、微細藻類パロバ関連商品販売などのビジネスに取り組む。



<https://opbio.com/>

RePHAGEN



村上 明一
代表取締役

琉球大学発のベンチャー企業

事業内容 2018年4月に創業した、琉球大学発のベンチャー企業。低コスト生産が可能な安定型VHH抗体の迅速開発法による抗体の提供、バクテリオファージを利用したファージのバンク化および抗菌剤・ワクチン材料の開発に取り組む。



<https://rephagen.com/>

StapleBio



勝田 陽介
取締役 CSO

熊本大学発のベンチャー企業

事業内容 2021年11月に創業した、熊本大学発の研究開発型創業ベンチャー。日本発の次世代型核酸医薬技術である「Staple 核酸」をコア技術として、治療法のない希少疾病や新興感染症などに対する治療薬の開発を目指す。



<https://www.staplebio.jp/>